

SSKA  
**東腎協**

91年4月25日

No. 88

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒161 東京都 [REDACTED]

郵便振替口座 [REDACTED]

電話・FAX [REDACTED]

昭和四十一年八月七日第三種郵便物認可の日  
 SSKA増刊通巻一七九四号～毎月六回一の日  
 一九九一年四月十二日発行  
 日発行



写真・本間 正良

●おもしろ記事●

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| ○全腎協20周年総会に参加を…………… 3 | ○会員さん訪問(41) 本吉繁清さん…………… 12 |
| ○東腎協第19回総会開く…………… 4   | ○スタッフ訪問…………… 16            |
| ○新常任幹事紹介…………… 6       | ○看護問題を考える集い…………… 17        |
| ○医学ニューススポット…………… 10   | ○趣味のグループ紹介「俳句会」…………… 23    |

私の仕事は、学生寮の管理人である。妻とともにこの仕事に就き、十三年を迎えようとしている。早いものだ。私の仕事は、透折のない火、木、土曜日がほとんどである。

私の一日は、朝六時の朝食の仕度から始まり、八時には男子大学生六十人が食べられるようにしなければならぬ。朝食の準備が終わるとすぐにゴミ捨てである。昨今では、社会問題にまでなっているゴミであるが、学生達が出すゴミは、生ゴミも不燃物も一緒、ゴミ問題など全く意に介していない。これがこれからの時代を担う若者達かと思うと危機感さえ覚えしてしまう。こんなゴミを分別して、捨て終わるまでに二時間はかかり、やっと朝食を摂れる頃には十時を回っている。

近頃はすっかり春めき、自分の季節が来たなと実感している。私の趣味の一つに「畑仕事」がある。始めたばかりの頃はほんの家庭菜園程度のものであったが、趣味が昂じて今では六百坪ほどの畑を借りている。この時期は朝食の後、午後一時位まではジャガイモの種まきである。おかげでジャガイモなら一年間学生の食事を十分にま

## リレー・エッセイ

# 趣味と仕事は私の支え

常任幹事 小泉 佐内



かなえるほどになった。そして、三時から夕食の仕度である。新学期からは寮生が九十人を超えることになっており、より忙しい毎日が予想される。このように、仕事と趣味を持つことが私の支えになっていると思う。

私が透折を始めて十六年になる。その頃の三年程は入院を繰り返す年月を過ごした。十三年程前の十一月には腹膜炎を併発し、退院も間近かと思っていたのもつかの間、手術をするはめになった。この頃の自分は、精神的にもかなり減入っていた。めったに弱音を吐かない自分ではあるが、毎日のように付き添いをしてくれた姉に、「俺は今まで人のために一生懸命つけてきたのに、なんで自分だけこんな苦しみのか。」と絶望感にひたつた心で言ってしまった。そのような意識が続いたのも術後一週間程だった。それから三か月はほとんど意識のない日々が続いた。それが翌年の春、突然のように意識を取りもどしたのだが、それからの回復ぶりは、周りのものも驚くほどであった。

何が私をそうさせたのか、勿論、主治医や看護婦の皆さん、身内の

励ましも大いにあったと思うが、一番大きかったのは本人の気持ち、頑張りであったと思う。当時、息子は中学三年生、娘はまだ小学二年生であった。「自分には子供を育てる義務がある。こんなところで終わるわけにはいかない。」この気持ちである。今、息子は国家公務員として働き、娘は幼いながらこんな自分を見てきたせいか看護婦になるべく勉強中である。新しく透折に来る患者が、よく落込んでいることがある。その気持ちは本当によくわかる。そんなとき、同じような体験をしている私の話が、主治医の話よりも励ましになることがあるようだ。そしていつの日か、その人達が社会復帰していくのを見ても、自分もまだまだ人のためになり得るのだと思ひ、フアイトが湧いてくる。

自分も人の子、今でも時にはくじけそうになる事もある。でも、自分には苦難を乗り越えてきた自信がある。仕事、趣味がある。家族がいる。まだまだやる事がたくさんある。くじけてなんかいられない。

今年も東腎協、全腎協の行事が非常に多いので頑張りなくては！

# 盛りだくさんな企画

## 全腎協20周年記念総会近づく

東腎協総会も無事終了し、いよいよ全腎協総会です。体調を整え、こぞつて参加しましょう。

・とき 5月26日(日)  
・ところ 笹川記念館国際会議場  
(東京・田町)

### 20周年記念総会

9時30分～12時(開場 9時)  
形式 全体会議



国際シンポジウム、公開トークはご家族、病院のスタッフにも参加を呼び掛けましょう

### 国際シンポジウム

13時～14時45分  
「世界の腎不全患者とその運動」  
参加予定国 日本(油井会長)、

### 確かな手応え

#### 20回目の国会請願

全腎協が結成以来連続して二十回目の国会請願行動が三月二十六日(火)に行われ、全国各地から各県組織を代表して百三十八人が参加した。東腎協からは泉山会長を始め十三人が参加した。全国から集められた七十五万人の署名を前に全腎協の油井会長は「今、二つの大きな問題がある。

### 公開トーク

15時～16時30分  
「腎不全対策の20年」  
参加予定者 三村信英(国立佐倉病院院長) ほか  
司会 松村満美子

米国、韓国ほか  
児島美津子(日本福祉大学 学教授)

①透析の高齢化、合併症により要介護が二〇％、委員会を発足して進めている。②医療法の改正で我々透析患者の入院が制限されていることであるが、国会請願行動は年一回の切実な願いを聞いて頂く唯一のチャンス、東京へ出てきて良かった。有意義な一日だったと、思えるように今日一日頑張りましたよ」と力強い挨拶があった。その後、各党派の議員(衆参議員二十人、秘書五十三人)から激励の挨拶を受けた。激励の議員も

機器展示、作品展もあります。昼休みなどを利用して、ぜひご覧下さい

### 「人工腎臓関連機器展示」

透析初期の珍しい透析器など総会会場に展示されます。

### 「会員作品展」 埼玉友担当

二十六日(日)の九時から総会会場四階の研修室では、会員からの絵画、書など素晴らしい作品の数々が展示されます。また、作品のオークションも行われます。

今までで一番多く、全腎協運動の広がりが感じられた。昼食休憩後、各県の代表者は各議員室を訪問し、透析患者の切実な実情を訴え、署名を渡し、請願の紹介議員をお願いした。

東腎協の担当した議員は、社会労働委員会が開かれていて不在のため秘書の方が対応したが、要介護問題など私達の訴えを熱心に聞いてくださり、きつと二十回目の請願行動が成功に結び付く手応えを感じる一日であった。(草間)

## 東腎協第19回総会開く

# 運動の継続は力なり

東京都腎臓病患者連絡協議会第19回総会



東腎協第十九回総会は四月七日(日)、戸山サンライズで開催され、降りしきる雨の中を会員、家族など一八八人が参加しました。昨年、に続き今年も総会が始まるまでの時間を利用して、東腎協活動スライドの放映があり、腎移植推進キャンペーン、会員交流会など東腎協の多彩な活動が紹介されました。

総会は司会の木村妙子常任幹事の開会の挨拶で幕が開かれ、議長団に奥野い久代さん(立川腎クリニック希望会)、小脇正史さん(国分寺南口クリニック親光会)を選出し、平成二年度に亡くなられた会員の方々へのご冥福を祈り黙禱をささげました。

そのあと壇上にたつた泉山会長は「今ではだれでも、どこでも、いつでも希望すれば透析にかかれる時代になりました。しかし、安心かというところがありません。みんなが一致団結して厚生省、東京都などに要請を続け、現在の制度を勝ち取り守ってきました。団結は非常に大切なことです。要介護問題などあり、非常に難しい時代ですが、皆さんが知恵を出し合い、良い方法を考えて陳情、要請を繰り返して、私たちが安心して治療し、生きていく状況をつくりだしていく環境にしていきたいと思えます」と挨拶しました。

激励ありがとうございます

ございました

(敬称略)

(来賓)

植木こうじ都議(日本共産党)

山川 和夫腎臓移植普及会理事)

油井 清治(全腎協会長)

(祝電・メッセージ)

東京都衛生局長・大坪哲夫

東京都福祉局長・石崎富江

東京都労働経済局長・中山敏行

都議会自民党幹事長・渋谷守生

社会党都民会議・都議団幹事長

安形惣司

都議会公明党幹事長・藤井富雄

東京都腎不全対策協議会長

杏林大学第一内科教授・長沢俊彦

日本透析医学会会長・稲生綱政

東京難病団体連絡協議会会長

河村真澄

医療法人社団清湘会理事長

星野正信

国分寺南口クリニック院長

小林健二

調布病院院長・杉崎弘章

長原三和クリニック院長

善山金彦

医療法人社団善仁会・三鷹北口病

つづいて来賓の日本共産党・植木こうじ部議 腎臓移植普及会・山川和夫理事から激励の挨拶が行われました。そして全腎協・油井会長から今までの関東ブロック代表の一ノ清副会長に加え九十一年度、東腎協から高橋、柳の両副会長を全腎協の運営委員に選出したことへのお礼と全腎協二十周年記念事業を成功させるための全面的協力のお願いと期待を込めた挨拶が行われました。引き続き各方面からの祝電メッセージが紹介され、議事に入りました。

### 一年間の活動と方針

平成二年度活動報告はシャントの手術で入院中の森事務局長に代わって草間事務局次長から行われ、二年度の情勢(①脳死と臓器移植の状況が大きく動いたこと②看護婦不足が深刻であること③都立病院で今、効率化、経済性重視の合理化が推し進められようとしていることなど)の中で都庁要請、会員拡大、交流会など活発に運動を展開してきたことが報告されました。また、同決算報告、同監査報告を一括討議し、承認を受けました。

午後からは平成二年度活動方針案が糸賀副会長から提案されました。「自分たちと同じような苦しみ味あわせたくないという願いのもとに会を作っている。早期発見、早期治療という基本的な予防医学も含めた腎疾患総合対策の確立を基本的なこの方針の構えに置いている。そして要介護問題がますます深刻になってきていて東腎協も自分たちの大きな問題としてとらえていく」とポイントを述べて二年度と変わった点について一つ一つの項目について説明を加え、提案を行いました。そして予算案が中田会計から提案され、東腎協会費値上げに関する規約改正案が川島常任幹事から提案され一括して討議に移りました。

①事務局体制の強化とは具体的にどのようなことか②西多摩地区に透析施設を③規約改正の資料作成の費用はどの項目から支出するか④事務局員の給料をアップしてはどうかとの意見、要望があり、経過、現状、考え方について回答した後、拍手で三案は採択されました。新役員には副会長に木村妙子氏、竹田文夫氏、事務局次長に石川みさ氏が選出されました。

総会終了後、帝京大学市原病院副院長・小出桂三先生から「エリスロポエチンの上手な使い方と透析の合併症」と題して講演が行われ、大変好評で、会員から切実な声があり、全部で十の質問がありました。この模様は次号に掲載予定です。

### 副会長、新体制に

#### 〈主な役員の紹介〉

- 会長 泉山 知威 (すずらん腎友会)
- 副会長 一ノ清 明 (東高円寺フェニックス会)
- 〃 糸賀 久夫 (松和患者会西新宿支部)
- 〃 木村 妙子 (上野しのばす会)
- 〃 高橋勇二郎 (西新井病院腎友会の会)
- 〃 竹田 文夫 (国分寺南口クリニック観光会)
- 〃 柳 光夫 (サポテン会)
- \*一ノ清、高橋、柳副会長は全腎協担当副会長
- 事務局長 森 義昭(半専従)
- (人工腎臓虎ノ門・高津会)

#### 〈寄付〉

- 院、吉祥寺クリニック、武蔵境駅前クリニック、城南クリニック、全腎協加盟 北海道、岩手、秋田、宮城、山形、福島、茨城、栃木、埼玉、千葉、山梨、長野、富山、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、島根、広島、香川、愛媛、徳島、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
- 腎臓移植普及会 五万円
- 財団法人腎研究会 五万円
- 東京難病団体連絡協議会 一万円
- 会長・河村眞澄 一万円
- 阿万内科クリニック 二万円
- 月島サマリア病院 三万円
- 岡本 晁 二万円
- 〈腎疾患総合対策推進募金箱〉 三十円

たくさんのメッセージ、祝電をありがとうございました。皆様からの激励の言葉を全部ご紹介できれば良いのですが、誌面の都合で割愛させていただきました。これを励みに泉山会長を先頭にこの一年がんばってまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくおねがいいたします。

事務局次長

石川 みさ

(東和病院腎友会)

顧問

和男

(腎研友の会)

会計

中田 青攻

(嬉泉病院ニレ友の会)

常任幹事

井上寧枝 (吉祥寺クリニック)

岩田貞子 (福生病院腎友会)

岩本美津枝 (あけぼの友の会)

大年可南子 (大田病院腎患者会)

軽部和之 (立川腎クリニック)

金子 智 (松和患者会目白)

川島桂輔 (三鷹北口病院腎友会)

河村朝史 (松和患者会西新宿)

小泉佐内 (杏林腎友会)

笹川 浩 (阿万内科腎友会)

高橋政時 (あけぼの友の会)

東野榮夫 (あけぼの友の会)

林田洋子 (聖蹟さくら会)

堀 和正 (上野しのばず会)

本間正良 (大橋クリニック)

谷地武広 (大山中央腎友会)

山田秀行 (今尾医院腎友会)

会計監査

島津博和 (腎研友の会)

福本 敦 (今尾医院腎友会)

### 新常任幹事紹介

①年齢 ②透析歴 ③患者会名 ④これらの抱負など一言

岩田 貞子



37歳 透析歴4年  
福生病院腎友会

東腎協の会議に出させていたただいて初めて事務局はじめ幹事の方々の御苦労がよくわかりました。足りない私ですが、少しでもお役に立てたらと思います。皆さんと同じようには出来ないかもしれませんが、精一杯努力させていただきますのでよろしくお願い致します。

岩本 美津枝



透析歴10年  
あけぼの友の会

このあり地獄(常任幹事)だけは、落ちないように気を付けていました。が、とうとう足をすべらせ

てしまいました。今後は、諸先輩の案内の下に、迷わないように勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

岩本 満次



60歳 透析歴4年  
太田病院腎患者会

この度東腎協の常任幹事をお願いしました。岩本でございます。先輩のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

大年可南子

45歳 透析歴4年半  
森山病院友の会

今のところ体の調子がよいので、せいっぱいやらせていただきます。

軽部 和之



39歳 透析歴6年  
立川腎クリニック  
希望会

微力ながら、先輩方の御指導の

下に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

河村 朝史



49歳 透析歴14年  
松和患者会西新宿支部

会社人・透析者として各14年、今、思うことは「心のやさしさ」の大切さである。わが娘にも医療にも「心のやさしさ」を願う。

### 寅さんも呼んでいる

(東腎協会員交流会)

- ・とき 6月2日(日)
- ・ところ 葛飾柴又
- ・食事 高級料理 川甚
- ・会費 3,000円

## 平成2年度決算報告

(自H2.3.1～至H3.2.28)

(単位:円)

	科目	予算額	累計	%	備考
収入部	会費	15,732,000	16,738,300	106.3	期首会員数4,376人、期末会員数4,767人
	寄付金	220,000	769,911	350.0	扶養親族、腎臓学会、富山県会友会、下村議員ほか
	雑収入	150,000	401,242	267.4	定期預金利息ほか
	小計	16,102,000	17,909,453	111.2	
	前期繰越	1,569,812	1,569,812	100.0	
	前年度会計より繰り入れ	655,500	655,500	100.0	全腎協分担金引き上げ分(10月～2月)
	合計	18,327,312	20,134,765	109.9	
支出部	会議費	1,960,000	1,841,238	93.9	
	総会費	600,000	527,364	87.9	弁当代、講師謝礼、交通費ほか
	諸会議費	1,360,000	1,313,874	96.6	常任幹事会、幹事会、各委員会交通費ほか
	印刷費	1,800,000	1,918,165	106.6	
	会報費	1,500,000	1,575,040	105.0	機関誌No82、No84～No86印刷代ほか
	その他	300,000	343,125	114.3	コピー用紙、封筒印刷、名刺印刷代ほか
	役員行動費	730,000	548,062	75.0	常任幹事活動費
	事務局費	2,600,000	2,382,289	91.6	
	事務所管理費	1,020,000	1,022,326	100.2	家賃、光熱費、水道料、火災保険料
	通信費	900,000	758,001	84.2	文書発送代、切手代、電話料ほか
	備品費	560,000	511,704	91.3	ワープロ、印刷機リース料、保守料
	事務用品費	70,000	47,568	67.9	セロテープ、クラフトテープほか事務用品
	新聞図書費	50,000	42,690	85.3	都政新報購読料(年間)、その他書籍
	人件費	4,896,200	4,948,940	101.0	
	給料	3,556,000	3,556,000	100.0	事務局員2名分
	退職積立金	254,000	254,000	100.0	
	アルバイト料	946,200	1,005,220	106.2	アルバイト2名分ほか
	通勤交通費	140,000	133,720	95.5	事務局員2名分
	諸会費	5,921,250	6,263,350	105.8	
	全腎協	5,899,500	6,241,600	105.8	H2.3月～H3.2月分分担金
	東  産  連	10,000	10,000	100.0	2年度会費
	身  定  協	11,750	11,750	100.0	2年度
雑費	69,862	50,367	72.1	島田事務局次長花輪代、事務所消耗品など	
小計	17,977,312	17,952,411	99.9		
予備費	350,000	0	0.0		
合計	18,327,312	17,952,411	97.9		
繰越		2,182,354			

## 平成2年度特別会計決算報告

自H2.3.1  
至H3.2.28

	科	目	金 額
収入の部	1.	前期より繰越	6,222,124
	3.	国会請願募金	3,181,736
		計	9,403,860
支出の部	1.	東腎協入会のしおり(2,000部増刷)	79,825
	2.	東腎協No83(都民の集い報告集)	484,924
	3.	腎移植推進キャンペーン(上野、小金井)	262,111
	4.	都民の集い(第4回)	364,996
	5.	全腎協分担金振替	655,500
	6.	国会請願募金納付(全額662,000、JPC420,000)	1,082,000
	7.	特別会計通信費(署名用紙、ポスターなど発送)	231,478
	計	3,160,834	
	繰越	6,243,026	

## 平成3年度特別会計予算

(自H3.3.1~至H4.2.29)

## 収入の部

1.	前期繰越	6,243,026
2.	全腎協分担金返戻金	655,500
	合 計	6,898,526

## 支出の部

1.	腎キャンペーン(腎移植推進キャンペーン)	300,000
2.	第5回都民の集い(講師謝礼、役員交通費ほか)	400,000
3.	第4回都民の集い報告集(40P、1,200部)	500,000
4.	東腎協小旗作成(C12,000×5本)	60,000
5.	特別会計通信費(署名用紙、集い、キャンペーン案内発送)	250,000
	合 計	1,510,000

- (注) 1. 平成3年度全腎協国会請願署名、日患協の国会請願署名、要請行動が行われる場合は、それに必要な経費を特別会計から支出することを、ご了承下さい。
2. 全腎協20周年記念総会で一般会計の全腎協関係費を超過した場合は、それに必要な経費を特別会計から支出することを、ご了承下さい。



## 潮流

高齢者から提供された死体腎は、若い人から提供された死体腎より劣るのか劣らないのか。名古屋記念病院泌尿器科

の藤田民夫部長（写真）の研究グループは、九十八人の提供

者（ドナー）からの死体腎移植百三十三例の成績を調査した結果、「二十歳代から六十歳代の死体腎には差がみられない」との結論を下しました。

この調査は、藤田学園保健衛生

## 有効な高齢ドナー

## 死体腎移植に好データ



最近移植腎の提供が不足気味で、移植される患者（レシビエント）はかなり高齢のドナーからも腎臓の提供を受けるようになっていきます。その結果、高齢者ドナーの腎移植はどこまで可能かということが専門医の間で議論されています。

八例、四十歳—四十九歳（三十一例）、五十歳—六十九歳（五十九例）の四グループに分け、二年、三年後の生着率を比べました。その結果、二十歳未満の生着率

は一年後、二年後、三年後の順に

九・五・七％、九・五・七％、八・七・七％、七・七・九％でした。つまり、二十歳未満の死体腎の成績が一番よい一方で、二十歳以降については年齢による差はあまりないという結果でした。

藤田部長たちの今回の研究結果は、こうした議論にひとつのデータを提供しました。同部長は「五十歳以上のドナーの腎臓でも、治療後の経過に差はない。提供される腎臓が不足している中で、今回のデータは意味があるものと思う」と話しています。（木村治之）

## 医学

ニュース  
スポット

## 免疫抑制剤の

## 開発がカギに

## 異種移植の普及

心臓移植手術の世界の第一人者である米スタンフォード大学医療センターのノーマン・シャムウエイ教授は、日本などで開発された新しい三種類の免疫抑制剤は、シクロスポリンより強力であり、より特異的な効果を持つだろう」と

大きな期待を寄せている。

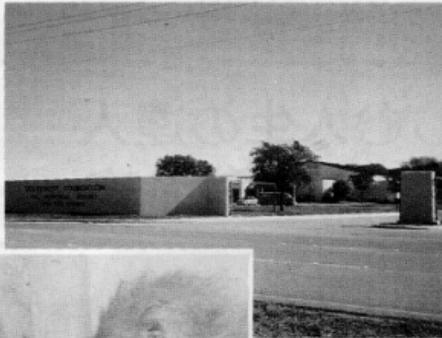
この免疫抑制剤は、藤沢薬品が開発したFK1506、日本化薬が開発したデオキシスバガリン、米国で開発されたラバマイシンの三種類。

一方、米ユタ大学心臓移植プログラム部長のミヒヤエル・プリストウ博士は、「こうした新しい免疫抑制剤の効果は極めて高く、一九九〇年代半ばまでに、異種移植の普及を推進するだろう。ただしその場合は、動物の権利という新しい問題に巻き込まれるだろう」との見解を述べている。

シャムウエイ博士によるとスタンフォード大学での心臓移植患者の術後五年生存率は、約六十六％、十年生存率は四十五・五〇％に過ぎないが、新しい抑制剤を使用すれば、生存率はぐんと向上するも

チンパンジーやヒヒなど霊長類の肝臓、腎臓などを人間の体内に

移植する試みは、かなり以前から米ビッツバーグ大学の臓器移植の大御所、トーマス・スターズル教授が行ったが、いずれも拒絶反応が強く、旨くいかなかった。しかし、性能のいい免疫抑制剤が開発されれば、動物の臓器を人間に移植しようという考えが当然



写真⑤カリフォルニア州のロマリンド大学でヒビの心臓を新生児に移植したが、その時もこのヒビがドナーになった。

出てくるものと思われる。米の移植専門医の中には、すでに異種間移植を視野において研究している人も少なくないが、異種移植が普及すれば、また新たな倫理問題が発生してくる可能性が強いことを示唆している。

## 自己血輸血を積極的に導入

手術前に自分の血液を採取して保管し、手術に使用する「自己血輸血」が、積極的に導入されることになった。

自己血輸血によって手術時の輸血によってエイズや肝炎ウイルスに感染するケースを予防し、さらに約一万種ある白血球の血液型の不適合といった危険を避けることもできる。

こうしたことから厚生省と日本赤十字社は、血液を採取する際の基準を具体的に作成し、国民的規模で推進することにした。

一般の手術に必要な血液量は八百から千ミリリットル。一方、一回の採血量は四百ミリリットルで採血は三、四か月あけることが必要だ。このため、自己血輸血に必要な量を確保するには数か月かかることになる。そこで短期間に必要な量の確保可能な基準作りが検討されている。

本欄は読売新聞社の協力で編集作成しました。

## C S濃度測定短縮に新手法

腎臓移植手術後に欠かせない免疫抑制剤シクロスポリン(CS)の血中濃度を迅速に測定する方法を広島大学第二外科の松野清先生、土肥雪彦教授らの研究グループが開発した。

この方法は蛍光偏光免疫測定法(FPIA)と呼ばれる方法で、最大の利点は測定に要する時間が前処理を含めても約三十分しかかからない点。従来の高速液体クロマトグラフィーは約三時間、ラジオイムノアッセイ法では約十二時間もかかる。

研究グループが腎臓移植患者を対象に行った測定結果によると、順調に経過した症例の〇―一か月平均が三四九ミリリットル、一―三か月平均が二四七ミリリットル、急性拒絶反応が一五三ミリリットル、腎臓毒性発現時が四五三ミリリットルだった。

こうした結果から、従来の測定結果とほぼ同じ数値が得られ、この方法がCS濃度の迅速な測定に十分利用できるという。

写真④米テキサス州サンアントニオ市には、サウスウェスト財団があり、実験用のヒビ、チンパンジーを数千頭も飼育している。



## 会員さん訪問〈41〉

日々楽しむ人生の達人  
社会参加への意欲なお

本吉 繁清さん

「午後三時半にJR錦糸町南口旅行センター前で待っています。肩にカバンを下げ、杖をついていますから、直ぐわかるはずですよ」  
八十一歳とは思えない、若々しい声が電話口から伝わってきました。  
今回の会員さん訪問の主人公、本吉繁清さん（新小岩クリニック友の会）との最初の触れ合いでした。インタビュイーには本吉さんと顔馴染みの東腎協の草間さん、中田さんが立ち会ってくれたので、何の苦勞もなく、本吉さんとお会いできましたが、その素顔は電話で想像した通りのものでした。

## 健康の秘訣・トイレ体操

「ずいぶんお元気そうですが、健康法を何かおやりになってますか。」

本吉 立って動くとか何かと危険なので、自分で考案したトイレ体操をやっているよ。トイレの便座に座って、首と肩を曲げたり、回したりして約十分、体を柔らかくするし、排便も非常によろしく。腰から下の鍛練は、とにかく歩くことだ。名所旧跡、庭園やデパートなど楽しいよ。自宅（江東区毛利）から新小岩クリニックには週に三回通っているけど、透析のない日もできるだけ歩くことにしている。

それに咀嚼（そしゃく）の励行だな。三十回は嚙んでノドを通す。

栄養の吸収にもいいんだな。

透析室に入るとき、外から帰ったとき、食事前はうがいと手洗いを必ず。

クリニックで看護婦さんから「何か変わったことはありませんか」と聞かれると答えはいつも決まっている。

「快食、快便、無尿。その他は落ち着いている。」

うちにも風呂はあるが、毎日散歩のついでに、夢の島の「憩いの家」や区内の福祉会館の湯を使おう。思う存分湯を使って、首まで湯船につかり、のんびりする。帰りに錦糸町の駅近くに、お気に入りのコーヒー・スタンドがある。そこで一杯百八十円のコーヒーを飲むのが楽しみ。コーヒーを飲むといつても中に入っている水をなめるのが好きなんだが……。

ともかく、生活のリズムを変えないことが健康に一番。しかも金をかけずにね。

## 勤労意欲がおあり

「まだ働くご意志はありますか。」

本吉 ありますよ。生きがいを求めて働かねば。働く喜び、社会参加は忘れてはいかん。江東区のシルバー人材センターに登録している。もつともいい働きの口はないが……。

テレビのニュースをよく見る。

社会的な関心を持たなくてはね。生れつき「何でも聞きたい、見たい、言いたい」という性格だから、何にでも首を突っ込むよ。毎月第三日曜日は「江東 腎臓病を考える会」があるが、毎回出かけるよ。どうも無関心なものが多くていかん。患者会の会合にも欠席する。出てもメリットがないというんだからしょうがない。役員の輪番制を取るとか、年に三回ぐらいは会員の茶話会のような交流会を開いたらいいんじゃないかな。

透析はいつから始められまし



元気に日々の生活を語る本吉さん

たか。

本吉 昭和五十九年四月から。

昭和の初めから北海道の小樽で繊維の卸しをやっていたが、五十六年ころから持病の痛風が悪化し、それに心不全、体のむくみなどで陣頭指揮して働けなくなってしまう。それで引退を決意して、店をたたみ、上京して長男のところに戻居した。心臓がだんだん悪くなり、最初都立墨東病院に入院したが、腎不全を起こし、三井記念病院に移って透析を始めた。

週三回、一回四時間半の透析だが、透析中血圧が下がるのが困るといえば困ることだ。生食(生理的食塩水)をいれたり、足を上げてしのいでいる。

### 三つの生活信条

——高齢者の透析をどうお考えですか。

本吉 高齢者透析といってもみんなと同じではないかな。きちんと自己管理して、目標を一年一年命を永らえていくことに置くんだから。

ただ、私は三つ生活信条をもっている。①転ばぬこと ②風邪を

ひかぬこと ③義理を欠かぬこと  
①は転ばぬ先の杖で、いつも杖を持っている。②は健康法でふれた手洗い、うがいの実行。③は約束したことは必ず実行することだ。

正直いって、私も同席した草間さん、中田さんも本吉さんの透析患者とは思えない開けっ広げの姿にすっかり圧倒されてしまいました。自己管理はきちんとし、義理を欠かさぬ生活を送りながら、お話しをうかがって、本吉さんの生活の中に、少しも制約めいたものを感じさせないのはなぜなのでしょうかが。

私たちのほとんどは「あれはいけない」「これはいけない」の制約社会に住んでいるようなものですが、本吉さんは制約をちっとも制約と感ぜず、伸び伸びと人生を楽しんでいるようです。人生の達人とでもいうのでしょうか。楽しむことを私たちは忘れてはいけないう、本吉さんは私たちにこう教えてくれているのでしょう。

(文と写真・小脇)

〈連載 その3〉

加藤 茂

# 私の雑記帳

新学期が始まり、新入学生と新入社員がどっと押し寄せる季節が始まった。JR山手線で毎日通勤電車で通動しているが、通学、通勤になれない人が乗ってくるので一年でも一層混雑がひどく感じ

る。「降ります。降りして下さい」と大声で怒鳴って叫んでもなかなか回りの人たちはドアへの通路はあけてくれず、次の駅まで降りられない人も珍しくない。大体、自分がホームに降りて「降りして下さい」という人のための親切心を持つたりすると、今度はその電車に乗れないということが当たり前のようになってきているからだ。会社に着く前にかなり疲れてしまう。こんな厳しいラッシュに毎日あつているんだから、健康な人も病氣

になつても不思議ではないような気がする。そういえば、都庁が新宿に移転してきたからラッシュは一段と激しさを感じるのは私だけだろうか。

## 腎友会20年誌のこと

一カ月位前のある日のこと。「加藤さんお願い、うんというまで電話切らないから…。どうしてもうんと言って」

「まいったなあ。俺を殺さないで下さいよ」

「そこをなんとか。もう加藤さんしかないんだから…」

「じゃあ。仕方がない。なんとかします…」

仕事の忙しい職場に電話を掛けてきてこんなお願いをされるのだ

からたまらない。もう勝手にしやがれという気分だ。腎友会(代々木病院腎友会)の二十年誌の年史部分の原稿を書いてくれたというのだ。二十年誌は、昨年から取り組んでいたのもう終わつたのかと思つていたら突然の電話。しかし、「やるよ」と言つてしまつて本当にできるのかなあ、と内心不安になつてしまつた。

そして、何とか必死に資料と格闘し、ワープロに向かい、不十分ながらたたき台となる原稿を完成させることができた。

大体私は、文章を書くのは苦でないので原稿を書く位はと安請け合いをしよう。今、その他にも東腎協の編集委員、全腎協の年誌の編集委員などにも首を突っ込

んでいる。一カ月に一回「全腎協の二十年誌」を作るために全腎協で会議を招集されて参加しているのだが、他の編集委員はみな熱心でもって感心させられる。私などは、この熱心さについていけない。「全腎協の二十年誌」は、全腎協の二十年記念行事のひとつで担当が東腎協ということになつたそうで、私も編集委員の一員に選ばれてしまつた。

委員になつたので資料も読まなくては行けない。それらの資料を読み返してみるとこの二十年の足跡が遙か遠くの方から多くの人々の努力でつながつて続いてきていることを痛感させられた。昭和五十六年(一九八一年)発行された「福腎協情報別冊」は、昭和四十六年(一九七一年)に読売新聞に連載された新聞記事を再録している。浦川光永会長(故人)は、「全腎協十年の歴史は、この記事をめきにしては語り得ない。その意味で、これは、会員・家族必読の文字でもある」と表紙に再録の言葉を書いている。

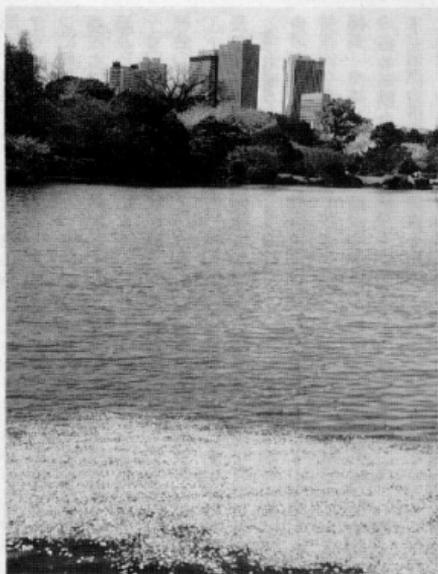
## ●全腎協20年の足跡が遙か遠くの方からつながつて続いていた……

連載は「ジン臓病との戦い」というタイトルで連載六回目(七月

九日付)は、「選ばれる命」として次のような記事が載っている。

### 腎臓病との戦い

「あなたは自分に打ち勝つ強い意志を持っていきますか? 家族も会社もあげてあなたの治療に協力する覚悟はできていますか? 治療費は確実に払えますか——病気になるたとき、医師が治療を始める『前提条件』として、いまあげたような質問をきびしく問いかけたら、あなたはどうするだろう。『医



池には桜の花びらが(新宿御苑で)

の基本は患者の命をまず救うことだ。金や患者の性格を問題にするのはおかしい」と答えるはずだ。確かにそのとおりである。

ところが慢性ジーン不全の患者が人工ジーン臓を利用するためには、医師のあげる条件を満たさなければならぬ現実がある。つまり条件が満たせるかどうか、命に繋がっている。こうした条件がなぜ必要なのだろうか。条件は、「患者選択基準」と呼ばれるが、京都大学病院泌尿器科の沢西謙次講師

はその理由を次のように説明している。

「血液透析は、いったん始めたら終わりが無い。患者は元通り健康を回復できる反面、毎週一〜三回確実に透析を続けねばならない。透析は大きな装置を動かし、多くの人手がかかる巨大医療だから一回の透析費は三、四万円。十割給付の組合健保本人や資産のある人はよいが、国保や組合健保家族は払えないことが多い。私もかつてある患者を救いたい一心で人工ジーンにかけたが、途中で治療費が切れ、いくら説得しても病院にこなくなつた。患者はまもなく死亡した。患者は一時の夢しか与えられず患者の家族は借金だけが残つた。心を鬼にして治療費を確かめるのは透析を始めたら途中でやめてはならないからだ」人工ジーンを扱う医師ならだれでもこんな苦しい体験を持つている。

また人工ジーンを利用しているのに、意志が弱くて食事制限を守れず、死んでしまう人もいる。「こんな人はできる限り避けないと巨大医療にかかる労力と金がむだになってしまう。それに人工ジーンは極端に少ないから、できるだけ社

会に貢献する人を選ぶのは当然だろう」と沢西講師はいつている。「記事はまだあるのだが、余り長く引用するのも気がひける。連載は二十九回までであるが、どの回も必死な腎臓病との戦いである。この記事読むだけでも、やっぱりう・う・うんとうなってしまう。

そんな情勢の時、全腎協が生まれ、活動を開始したのだ。「むすこがジーン臓病で、医師からあと数か月の命といわれました。人工ジーンをかければ助かるそうですが、どこでも余裕がないと断られました。どうかしてください!」——そんな相談が全腎協に次々持ち込まれたとも連載記事には書いてある。

### 新緑の野山を歩きたい

だんだんと春らしくなつていく今、こんな原稿書きなんかほつぱりだして新緑に萌える野山にハイキングに出掛けてみたいと思う。固い着が少しずつ開いて可憐な花を、葉を広げようとする光景はなんともいえない。

一九九一年 春  
 (「東腎協」編集委員)

今回からの新企画「スタッフ訪問」—現場からの声—は、現在おきている諸問題を透析医療スタッフに聞き、透析患者にとつて良い病院とは何かを少し視点をあえて追及していきたいと思います。

今回は、患者としばしば接する機会が多い看護婦さんということで、松和会目白クリニック緑川婦長さんを尋ねお話を伺いました。

◆最初に最近の目白クリニックの特徴的なものを聞かせて下さい。

婦長 やはり高齢化、糖尿病患者の占める割合が多くなっています。当然合併症・二重障害を持った患者さんも多くなり、介護を必要とする機会も多くなりました。また、食事・日常生活、通院等についても個々に対応しなければならなく、MSW・栄養士とも充分に協議しなければなりません。

◆高齢の患者さんの自己管理について、どのようにお考えですか。

婦長 目標を持って前向きな生活がされている患者さんは比較的管理がうまくいっているように思います。ただそうでない患者さん、特にまわりの人に依存するタイプの患者さんは、透析にしても食事

にしてもすべて人任せ、クリニック任せという感が有り管理がうまくいっていないように思います。高齢者に限らず透析患者さんは生きた甲斐が目ざす透析患者さんは生きることが自分でやるという気持ちで積極的に生活を送られた方が良い結果がでると思います。

◆透析クリニックと一般病院の違いのようなものが有ると思いますか、どのようなことに日頃注意さ

## スタッフ訪問

### —現場の声—

れていますか。

婦長 透析室に勤務すると同じ患者さんと長年に渡りお付合をしていかなければなりません。治療のために場合によつてはかかり立ち入ったことまでかわつていきななければならぬという環境の中で時々、患者さんと看護婦の間でお互いに気まぐらくなったり、トラブルを起こしたりする場合も有ります。難しい問

題だと思えますが、お互いに気配や思いやりをもって接していくことが必要ではないでしょうか。

また医療的なことと言えば、ブライミングなど技術的な面をマスターすることは、多少の個人差があれはほど心配はいりませんが、慢性疾患の患者さんにはたいするケア、特にメンタルな部分については、看護婦一人一人が患者さんと接していく中で学習し経験を積



松和会目白クリニック  
緑川婦長さん

んでいかなければなりません。そういう意識をもって仕事をしたいかなどと患者さんに充分な看護ができないだけでは、仕事に対してにも思つまると思います。

◆最初にもお話ししましたが、患者さんの高齢化・糖尿病患者の増加などで、目・耳の不自由な患者さん、介護が必要な患者さんの割合が多くなってきました。そういう患者さんたちのデータ・症状を

きちんと把握し、医師に伝え適切な指示を受けることにいつも細心の注意をはらっています。また、目白クリニックの看護婦も一人一人意識をもつて頑張っています。

◆近年透析技術が大変進歩したと言われていますが、そういう中で注意点などがありましたら聞かせてください。

婦長 たしかに、ダイアライザーの膜の質が良くなり毒素の除去率、除水効率が良くなりましたが、基本は同じだと思います。いくら技術が進歩しても透析で一〇〇%腎臓の変わりにはできません。除水にしても水が引けるからと言って体重を増やして来れば、かえって体に負担がかかります。透析臓器を過信せずきちんと食事管理を守ることが大切だと思います。

◆最後に、患者への希望などありましたらお聞きかせください。

婦長 何か困ったこと、悩みなどがあつたら一人で考えないで気軽に相談してください。私たちもできるだけの努力はします。そして患者さんが安定した日常生活を送れるよう望んでいます。

◆忙しい中を、取材にご協力いただき有難うございました。(金子)

# 看護婦さん自身が健康に

## 看護問題を考える集い

三月一日(金)、東京都看護協会、東部地区支部の第二回「看護問題を考える集い」が飯田橋のセントラルプラザで夜の六時半から九時まで、看護婦さん、保健婦さん等五十名ぐらい集まって行われました。

まず、婦人労働研究家の川口和子先生の「看護はなぜ三Kなのか、私達の課題と今後の展望」と題して、一時間にわたって講演がありました。次に病院長の立場から伊藤一二先生(東京健生病院長)から看護婦さんの仕事のこと、役割のこと、患者に対する思いやりの心などの話がありました。

次に患者の立場からということが私が発言しました。日頃感じていること何でも言っておきたいと申されましたが、私は体調が悪かったのであまり発言が出来ませんでした。

「毎日の仕事の中で考えること」として看護婦さん二人と保健婦さ

んから、それぞれの立場から話がありました。少し私もふれましたが、保健婦さん方の話の中でも、やはり老人の介護の話がありました。保健婦さんからは家庭訪問介護のむずかしさなどの話があり、大変な仕事だと感じました。

看護婦さん達が熱心に話しているのを聞いてみますと、やはり大変な仕事だと思ってしまう。又、最後に川口先生が話していましたが、看護婦さん自身が健康であって欲しい。特に心が健康も同感しました。

看護婦さんの笑顔を見れば患者はホッとするのです。看護婦さんが健康でなければ笑顔は出ないのです。体調が悪く疲れましたが、出席して良かったと思えました。

(記・石川)

(注)三K きつい、きたない、給料が安い

# やさしい障害年金コーナー

シリーズ ④

最近の透析患者の特徴は、糖尿病を原疾患とする方の増加や高齢になってから透析を導入する方が増えてきました。また、長期透析患者の中には合併症で苦しんでいる方も少なくありません。

今回は、眠の障害をおもちで二重に苦しんでいる方々に「点字版」によるサービスについてお知らせします。

「年金受給者の心得」及び「受給者のしおり」の点字版の配付の実施は、障害年金受給者へのきめ細かなサービスを図るための一環として行われるものです。配付対象者は、眠の障害のある支給事由とする年金受給者のうち、障害の程度が一級または二級の状態である者で希望する者に配付することになっております。(平成元年八月より実施)点字翻訳システムの導入につ

いて

この点字翻訳システムは、視覚障害者の方から送付された点字文を翻訳するとともに、照会等に対する回答文を視覚障害者の方が読めるように点字ルールに従った点字文で作成する装置です。

この装置の導入により、点字による照会に対する回答処理が迅速に行われるとともに点字による回答を行うことができることから、視覚障害をもつ年金受給者は、晴眼者と同様に自ら年金についての相談や問い合わせを行うことができ、視覚障害者に対するきめ細かいサービスの上で図られることになりました。(平成三年二月より実施)みなさんのお近くで、視覚障害の方がおりましたら知らせてあげては、如何でしょうか。

具体的な年金相談は、事務局又は、社会保険事務所へ(糸賀)

# ななまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの闘病記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽にかいて事務局へ送って下さい



## 腎友会の20周年記念 パーティー盛大に開催 代々木病院腎友会

加藤 茂

代々木病院腎友会は二月三日、病院の近くの全郵政会館・オレンジクロスで腎友会の結成二十周年を祝って記念パーティーを開催、百二十人を超える人が参加しました。

第一部は、例年のように第二十回総会を行い、一年間の活動、会計報告、活動方針などを決めました。

総会後、いよいよ第二部の記念パーティーの始まりです。みさと病院院長でもある坂素行先生は「今から二十年前は透析台数が全国で二百台、患者四百人、それが今では大きな進歩をとげた。これは、医療従事者と患者が車の両輪となって新しい患者運動を作ってきたからだ」と述べ、東腎協副会長の高橋勇二郎さんは透析当時のことを振り返りながら「透析導入の頃は、機械がなくて腹膜灌流をしばらくやって大変だった。代々木病院で透析を始めたの聞いて期待したのだが、あいていない」ということで残念だった」というお祝いの言葉に拍手喝采。

高津司先生の乾杯ではあーと会場が盛り上がりました。透析十年を迎えた人(勝田発身、杉本ひ

ろみ、松岡映之、山中知子、外来通院二十年以上の人(慢性患者)への花束贈呈、アトラクションなど行い、二十周年記念パーティーは盛大に終了しました。

なお、「二十周年記念誌」の発行も準備を進めています。

## 患者活動に参加して 思ったこと

腎研友の会 島津 博和

私たち人工透析患者が生きていくために受けている医療の総べてが福祉制度や身体障害者として社会保障制度の適用を受けて行われています。私たちは、これらの制度を受けずには、生きていけないのです。

では、その制度は国や自治体が、又、それぞれに関わる政治家が自発的に配慮してくれた制度(法律)を作ってくれたのでしょうか、ノーです。透析医療に関しては今から約二十年前は、お金のない患者は透析を受けることが出来ずに死亡されていかれたとか、

又、当時のお金が年間一千万円近い医療費に全財産を使い果たして家族の悲劇を残して死んだって逝かれた事例も数々あったそうです。

そのような中で、全国の患者やその家族、一人一人が呼び掛けあい、厚生省自治体、政治家、マスコミに訴えたり、厚生省に座りこみを敢行する中で、全腎協・東腎協・病院単位の患者会が結成され始めて、他の各社の患者団体との連帯行動も行われて初めて、それが大きな圧力となりマスコミや政治家も取り上げられる様になり、国も自治体も腎臓病患者対策に目を向け始めましたが、一度に今の制度が確立された訳ではありません。

国に対しては全腎協、都に対しては東腎協が一つ一つの問題を働きかけて実現されてきたそうです。

私たち誰でもが目に見えて理解できる制度は、一、お金があなくても治療が受けられる制度、身体障害者として認定されて年金や交通運賃の割引

制度、その他、都・区の諸制度です。二、各医療機関や腎臓病の先生方に患者として意見や要望をしながら、医療の

進歩に協力してきました。又腎移植推進にも大きく力を注いできました。無論、透析医療の進歩も含まれます。

私たち透析患者全員が過去の患者運動の成果の恩恵を受けて透析医療を受けながら生きて居られるのだと思えます。そのように考えると、先輩たちに感謝すると共に、私たち一人一人が自覚して運動を引継ぎ、更に諸制度を改善、発展させて、次の世代にバトンタッチしていく義務があると思えます。患者会や全腎協の会費は、その運動の基本資金です。会から直接恩恵を受ける訳ではありませんが、制度の改善、進歩の恩恵を受けています。是は患者会や東腎協に加入していただくも全患者が恩恵を得ますが、このような透析制度、福祉制度を維持発展していくためには、出来れば全員の参加が理想でしょう。

## 病院の給食

須田クリニク

白井 次郎

いま私が通院している須田クリニクは午後四時に夕食が運ばれてくる。いろいろな料理が入っていて透析食らしくなく塩味も普通で旨い。退屈の間の間、夕食時はつかの間、大袈裟な言い方だがヤレヤレのひと時だから、ゆつくり頂く。近くにくらも時間が経っていないのに食器の蓋をする音がある。そんなにも早く召し上げられる音はなくて、ほとんど残飯となっているらしい。老人のことだから戦中、戦後の食料不足のことを考えない物体ないな一と思う。前、通院していた病院の容器は最初は円形だった。これでは狭いベッドでは都合が悪くて長方形に改められたが、横になって物を食べるのは実に厄介なもので、私は最初から椅子だった。たまにベッドだと実は大変。お茶を飲むにしても思う様にならない。狭いからテレビをガ

チンと床に落として、ヤレヤレこれで一卷の終わりかと思つたが奇跡的にナンでもなかつた。

看護婦さんがお茶を配食前に注いでくれるが、その後大分時間が経って配食されることもあって、お茶がすっかり冷めてしまい、五月蠅患者は文句を言う一幕もあった。面白いことに、ご飯を入れた容器を持ってまわつた。その頃は元氣だったから追加をお願いした。

金沢市の浅野川総合病院で、看護婦さんが患者の湯呑を全部集めてお茶を入れて配っていたが、患者のそれぞれの湯呑をよく覚えていたのだと感心した。無言飛び入りの私には瀬戸の湯呑にくれた。お盆の向こうにナニか黒いものが入っていた。コンニャクかなと思つていたら、ヨーカンドであった。

長岡市の長岡立川病院では看護婦さんが、不自由でしようとお刺書を割って下さつて恐縮した。然し献立は案外北国らしい食品で、そう旨いとは

思わなかつた。待合室が男性と女性に別れていて畳敷の部分もあった。男女と待合室は別れていても別に出入りは自由だから一緒になつてた。

京都の日赤第一病院では、透析が終わつたら宿でこ馳走が待つているから夕食を断つたが、意地の悪いもので終了後、どうしてか物凄く気分が悪くてタクシーで帰り、南禅寺近くの純日本風の宿の珍味佳肴も全然箸を付けることができなくて誠に残念な次第であつた。

ホノルルのセントフランシス病院は給食はなかつたので、二回目のときは握り飯を持って行った。ホノルルには各所にセブイレブンの様なABCストアと言ふ店があつて何でも売っているから便利だが握り飯が一個、三百円はチト高いと思つた。山本山のティーバックを持って行って、アヤシケな英語で「お茶をくれませんか」と頼んだ。

隣の患者の付添いの人がお見舞いにマウイ鳥から来た二世らしく、残つたティーバックを

差し上げたら珍しいと非常に喜ばれた。近くに老夫婦がいてご主人が奥さんのためにサンドイッチの包を開けてあげたりしているのは実にほほえましい姿であつた。

二年後に行ったホノルルのメディカル透析センターは膝の上に折たみ式のテーブルを持って来てくれて、その上にバックに入った握り飯とハンバーグと少量のサラダ、それにコンソメスープが旨かつた。水を注文する人は居なかつたし、待合室はないから無論アイスメーカーなどはなかった。不思議なもので、他の人が食べないものと、こちらの方が諦めるものだと思つた。このこのゲイル・オオコボと言ふ女性の医師は、ご主人が日本人らしく日本語が達者で苦勞なかつた。

通院りで所変われば品変わるで、病院それぞれ給食がかわつていて面白いものだ。四時に夕食になるので透析の日の昼は、サンドイッチとアイスコーヒー（今は寒くて熱い紅茶だ）。

だから早い夕食でも腹具合  
丁度となって都合がいい。サ  
テ今日はナニかと配膳され  
るのを待つのである。

(白井次郎 七十七歳)

### 甦った悪夢

靖泉病院二一七友の会

中田 靑攻

湾岸戦争が始まって、その  
映像がテレビを通じて私達の  
家庭に毎日飛び込んでしまし  
た。嫌でも悲惨さを見せられ、  
如何に戦争が残酷で多くの国  
民を犠牲にする争いである  
か、特に夜の空襲を見て感じ  
ました。

私が四十六年前、東京の下  
町で空襲に遭い着の着のま  
ま多くの人が逃げ惑うな  
か、母子六名猛火を突いて火  
煙を逃れるため学校へ向かい  
ました。しかし、危険を感じ  
隣接するコンクリートのトイ  
レの壁に沿って身を寄せあ  
い、恐怖と火災によって起こ  
る大風により、飛散する火の  
粒を払い除けながら無我夢中  
でした。

一夜が明けると一面が焼け

のが原で、最初避難した学校  
の内部も焼け落ちてしまし  
た。あの時もしも避難先を誤  
っていたら今の人生は無かつ  
たと思います。事実、その夜、  
後から避難した父と兄、寝た  
きりの祖母が行方不明で亡く  
なっていました。

こうした戦争の傷跡が私の  
脳裏に甦って一日も早く湾岸  
戦争が終わることを願ってい  
ました。幸い地上戦に入って  
百時間で停戦になり多くの入  
々が安堵したことがか。

それから三十年後、今度は  
腎不全になり、透析医療のお  
世話になり多くの社会の皆さ  
んの援助によって元気に社会  
生活が営むことが出来、心か  
ら感謝しています。その間、  
子育ての最中で、社会復帰し  
て十二年、子育てもある程度  
済ませることが出来たのも透  
析医療費が先達諸氏の運動に  
よって築かれた諸制度による  
ところが最も大きかったと痛  
感しています。

今日、この意志を継承し、  
多くの仲間が腎疾患対策、既  
得の制度を守るために頑張っ

ています。世の中には身勝手  
な論法で自ら「緑なき衆生」  
なる人がいるが、この世で誰  
も信じる事が出来なくなる

ことは、生涯、疑心暗鬼の闇  
の世界を彷徨することになり  
ます。緑なき衆生になりたく  
ないし、なるべきでない。こ  
れからも多くの人のために手  
を組んで一度の人生を有意義  
に過ごしたいと願うもので  
す。

### 高速バスが半額

個人会員(須田クリニック)

白井 次郎

池袋→金沢までの高速バス  
券が半額でした。これは知ら  
なかったで、大いに助かり  
ました。七千円余で金沢まで  
往復できるとは全く有難いこ  
とだと思いました。

航空券を買に行つたので  
すが、アイニク満席、帰りは  
モノレル等田無のウチまで  
帰って来るのは大変ですし、  
列車ですと苦手な階段を何回  
も上がつたりですから、バス  
ですと階段(駅のような)が  
皆無なので助かります。

JR、航空券の割引制度は  
知っていましたが、高速バス  
の割引は知りませんでした。

東腎協の会誌にPRがありま  
したが、以上お知らせいたし  
ます。

## 春は透析を

### 包みて

東海病院ひまわり会 桃木幸男

- 山ありて坂の道あり透析の  
けわしき歩ゆむ春の夢待つ
- 目で追いつ煙草の煙りわびしげに  
流される外は雨降りやまず
- 冬隔さす露地の細道花枯れて  
そよと吹く風春は遠をかし
- それぞれの痛みこらへて透析も  
生きる嬉ろこび春は来たりき
- 透析を終れば人はみな去りぬ  
一人わびしけ明日を想いて
- ふりむけば長かき透析耐え生きて  
歩ゆむ人生春廻りきぬ
- 去りてゆく小さき傘に春雨の  
光かりて散るは君の涙なり
- 朝通る細き横道雪割の  
花も哀なくし雪なき冬に
- 山ありて坂の道あり透析の  
けわしき歩ゆむ春を求めて

## 大森さんへの

## 感謝の集い

腎研友の会 草間 和男

三月十四日(木)、事務局の近くにある目白俱樂部というビヤホールで、大森さんへの感謝の集いを開きました。昔ではホワイトデーとやらで、周りにはアベックが多かったような気がしたが、最近はそのような人たちはこういう所には来ないで、豪華なホテルに行く人が多いと聞いているので、ただの偶然か？ こういう書き出しだと後がおかしくなるので、とにかく



三月十四日に開いたというこ  
とだけ記憶して頂いて本題に  
入ります。大森さん(東高円  
寺タリニック・透析十五年)

に東腎協機関誌の表紙をお願いしたのは、一九八〇年の四月号(東腎協機関誌三一年)からで前々号の八十六号まで、実に十一年間続けて描いて頂いたということになります。

東腎協では今回の表紙を見てお分かりと思いますが、東京の風物詩ということで、写真を使うことになりました。今後、うまく出来るか分かりませんがとにかくやってみようということになり、大森さんには1月号で最終回としていただきます。

そこでいままでのお礼としてゆかりのある編集委員会が中心となって大森さんへの感謝の集いを開きました。

まず、泉山会長からお礼の挨拶、そして大森さんに表紙をお願いするきっかけを作った加藤委員の乾杯の音頭で集いは始

まりました。その後、東腎協からのささやかな記念品を木村委員が贈りました。

大森さんは伝統工芸、手描友禅の大森工房を練馬で開かれています。染織のデザインが専門で、当日の話しの中で花など着物の絵柄を表紙に描いたときは時間がなかったり、少しいやなっていて、簡単にすませたときだったというエピソードを語ってくれました。

編集をやっている私としては機関誌は定期発行ということが命であり、何とか機関誌の発行期日間に間にあわせなければならず、大森さんと一緒に透析をしている一ノ清副会長を通じて何度も、何度も催促をしてみました。しかし、大森さんから「東腎協の表紙を描いてきたことは、プラスになった」との話しを初めて聞いて、ホッとしました。何しろ東腎協の十五周年のときに一度だけ感謝状を贈っただけ、あとは同じ透析患者ということだけで、何もお礼せず描いてもらっていたの

ですから……。

大森さんは持参した染織のデザインの本を示し、「透析をやったことで、少し後れをとったが、これだけたくさんデザインの入った本を出した人は居ない。これからも頑

## 大森さんの原画展を見る

張っていく」と話されています。東腎協としても今日の集まりが最後ということではなく、東腎協の二十周年記念誌などをお願いしますと、調子の良いお願いをし、再開を期して別れました。

三月二十六日、全腎協の国会請願行動が終わってから高橋副会長と一緒に大森さんの原画展を見に行きました。石神井公園駅前のお楽しみ生活館ブルーグラスNo2という所で行われ、原画の数々が展示されていました。東腎協の表

紙を飾った原画がこちら、こちらに展示されていて、一番最後の東腎協八十六号に使われて頂いた原画も展示されていて、何だかうれしくなってきました。一つ記念にと思いましたが、先立つものがなく諦めました。



東腎協の表紙を飾った原画も

## 災害時の透析病院の

## ネットワークづくり

森山病院友の会

石川 通寛

要望ですが、災害時(地震、大きな台風等々)の透析のバックアップシステムネットワーク、すなわち現在通院している病院が透析出来なくなったり、あるいは連絡がつかなくなった場合等、どうやって他の病院で透析が受けられるか、又はどこに連絡をとったらよいか、というような問題を東腎協として取り上げて欲しいと思います。

森山病院は江戸川区にあり、東京直下型地震発生の場合、病院の崩壊、又は連絡不能になる確率がかなり高くなると思われ、わが患者会の会員にも不安の声が上がっております。このような問題は一つの病院単位では解決困難なので、広いネットワークづくりが必要だと思います。

## 東京都に要望

東腎協では東京都への要請

行動で、衛生局と総務局に「地震、水害、火災など災害時ににおける透析施設間ネットワーク化等の緊急透析治療を確保して下さい」との項目で要請を行っています。

## 衛生局の回答は

災害時の医療救済体制は、医療救護班(これは区市町村が設置する初動的な医療救護班と都が設置する応援医療救護班の二種類がある)による応急措置と、重傷者に対する後方医療施設への収容治療がある。

透析を受けている患者についても救護所での応急措置に対応出来ない場合は、適切な後方医療施設へ搬送することになる。災害時の後方医療施設の確保というために、東京都災害時後方医療施設というのを、昭和五十四年に整備を始め平成元年度で三十病院を整備し、重傷者の収容、治療等に必要資機材の整備を完了している。

三年度以降については、これらの災害時後方医療施設が

常時適正に機能するよう、整備した資機材の更新を行う。

以上の回答を得ていますが、透析患者に対しては後方医療施設での対応だけでは十分な点が多く、引き続きネ

## 3年度方針を討議

## 東腎協第26回幹事会

二月十七日(日)、戸山サライズにおいて常任幹事、幹事など五十六人が出席して東腎協第二十六回幹事会が開催された。

堀常任幹事の軽妙な司会で始まり、まず最初に泉山会長から①確実予算化されている東京都の三年度予算「腎不全対策費」②湾岸戦争への九十億ドルの追加支援など今後の福祉・医療への影響③基礎になる患者会役員の方々の協力の必要性を折り込んだ挨拶が行われた。

その後、議長に高橋政時常任幹事を退出し、総会提出議案、全腎協二十周年記念事業などについて話あい、議事終了後、交流会の会場のこと、患者会の会費のことなど意見交換を行った。



ットワークづくりの要請を続けていきます。

また、昨年の八月に社団法人日本透析医学会では地震や災害時の天災地変をはじめ不慮の事態の発生により、特定地域の透析施設が使用不可能に

なった場合、近隣の透析医療機関が相互に連携して、救急時の透析医療を迅速かつ円滑に実施するために、「災害時救急透析医療システム」への登録を進めています。

(東腎協事務局)

## 表紙のことは

会報東腎協の表紙を、大森さんの絵から東京の風物詩と題する写真にすることに、春らしい風景という事で、桜を主題に決めて、取材に出かけました。

写真は、千代田区の千鳥ヶ淵水上公園です。皇居のお堀をはさんで両側に続く桜並木はすばらしいものです。桜の季節は混雑しますが、都心の絶好の散歩コースです。

(本間)



# 事務局から

## 平成三年度会費

### 納入のお願ひ

東腎協の会費は原則として年初に納入していただいておりますので、平成三年度分、一人四千二百円（全腎協千八百円を含む）を納入していただくようお願いいたします。

なお、郵便振替での納入については、従来は東腎協から領収証を発行してきましたが、事務手続簡素化のため郵便局発行の振り込み控え（受領証）をもって領収証とさせていただきます。ご了承下さい。

東腎協発行の領収証が必要な患者会、個人会員の方は、振り込みの際は、その旨をご記入下さい。また、郵便振替利用の場合は、必ず通信欄に内容を書いて送って下さい。

### ☆郵便振替口座

加入者名 東腎協

昭和四十七年八月七日第三種郵便物認可  
S5五九増刊通巻七九号  
一九九一年四月十二日発行

## 今年度主な活動予定

☆5月26日（日）全腎協20周年記念総会

☆6月2日（日）東腎協会員交流

☆6月27日（木）都予算要請

☆9月15日（日）東腎協幹事会

☆10月13日（日）腎臓及び角膜移植推進キャンペーン

☆11月17日（日）腎臓病を考える都民の集い

※このほかに各ブロックごと交流会が開かれます。ぜひご参加下さい。

## 組織強化月間に協力を

全腎協では昨年から組織強化月間と定め組織を活性化させるとともに、すべての腎臓病患者とその家族および私たちの運動を理解し協力してくださる人たちに入会を呼びかけています。

東腎協では今年の組織強化月間では、全腎協総会を間近かにひかえているため大きな活動は出さないため、ポスター、入会のおしりなどを利用して「各患者会で一人でも新しい会員を迎えよう」を合言葉に運動を進めています。

皆さんのまわりに未加入の方がいましたらぜひひと声かけて下さい。一人一人の力が集まれば大きな力になります。

## 表紙写真募集

今号より表紙に写真を使うことになりました。次号からは会員からの一般公募も受けつけます。写真の選定につきましては編集委員会が決めさせていただきますので、プロが選らぶというわけでなく、芸術的ち優れているものが表紙に採用されるというものではありませんのでご了承下さい。

しかし、できるだけ良いものを表紙に使うべく努力はします。

### ☆表紙題材 東京の風物誌

☆写真は白黒、カラー、どちらでも可ですが、できるだけ白黒でお願い致します。（表紙は白黒）

以前に写したのも可也。

### ☆写真サイズ キヤビネ版

☆表紙のこぼとして文を添えて下さい。一五〇字です。

☆機関誌は一月、四月、七月、十月の発行ですので、それぞれ十二月末、三月末、六月末、九月末がメ切りです。

### ☆発送先 東腎協事務局

皆さんのまわりに未加入の方がいましたらぜひひと声かけて下さい。一人一人の力が集まれば大きな力になります。

## 原稿募集

東腎協機関誌は年、四回発行しています。次号は七月発行ですので投稿される方は六月中にお願い致します。題材は自由です。透析のこと、身のまわりのこと、楽しいこと、つらいこと気軽な気持ちでお送り下さい。

## 新入会員紹介

——よろしく

大塚弘美、古谷みゆき、平山陽子

## 〈編集後記〉

私の中学からの友人がこの四月から伊東へ引越した。環七の大和陸橋（板橋区）のたもとでもち菓子の原料の卸をやっていたが、排ガス等による公害で子供がアトピー、ぜんそくで苦しんでいるのが主な理由だ。いったいだれがこんな街にしまったのか。私の子供の頃（もっとも三十年も前だが）はとんぼとたわびれたり、水あそびの出来る場所だったのに……。

（草間）

行所 身体障害者団体定期刊行物協会の  
東京都世田谷区站6-26-1 21 領価百円